

ごみ焼却熱で発電

小中51校の電力賄う

佐賀市の秀島敏行市長は7日、市立小中学校53校のうち、51校で消費する電力のほぼ全てを市清掃工場のごみ焼却熱を利用した発電で賄う考えを明らかにした。今月中に売電先となる新電力1社と契約し、7月に供給を始める。

佐賀市が表明

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を活用する。秀島市長は「年間7千万円程度の経費削減を見込める」と説明。「児童・生徒の環境教育にも役立てたい」と話した。

市清掃工場の年間発電量は現在約2500万キロワット時。このうち約500万キロワット時を九州電力に売電し、残りは清掃工場内などで利用している。

市立小中学校の消費電力は年間約600万キロワット時だが、市内のごみ処理施設の統合により今春に市清掃工場の処理量が増えるため、全量を賄えるようになるという。